

2024年度 入学試験問題

国 語

①

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 問題は、問題一から問題三までです（1頁～15頁）。
4. 解答は、すべて解答用紙の指定された箇所に記入してください。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

札幌国際大学
札幌国際大学短期大学部

国語

問題一 以下の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

【文章Ⅰ】

文化と心の性質との関係を研究テーマにする文化心理学で唱えられている仮説の一つに、次のようなものがあります。

それは「欧米社会には『相互独立的自己観』と呼ばれる信念群が共有され、東アジア社会には『相互協調的自己観』が共有されている」というものです。

分かりやすく言うならば、欧米の人たちは「自分は他人と違うユニークな存在である」と考え、「自己主張することが自分の望む結果を得る最良の方法だ」と信じているのに対して、日本人を含む東アジアの人々は「他人と違っているのは好ましくない」と考える傾向があつて、「他人と協調するのが自分の望む結果を得る最良の方法である」と信じている。分かりやすくいえば、東アジアの人たちは「みんなと一緒に」が一番いいと思つているというわけです。(中略)

さて、こうした仮説を検証するために、文化心理学者たちが次のような実験を行ないました。

それは、空港で飛行機を待つている旅行者たちに簡単なアンケート(専門用語では「質問紙調査」と言います)を行なうというものなのですが、その際、

「調査に協力してくれたお礼に、記入に使つてもらつてもらうペンを差し上げます」

と言つて、袋から五本のペンを取り出します。

Ⅰ このペンを選ぶことが実験の主眼で、質問紙調査のほうはそのためのフェイク、目くらましのようなものです。

Ⅱ ここで差しだされた五本のペンはどれも同じ形状をしているのですが、そのうち一本か二本、他のペンと違う色のものが混ざつています。

勘のいい読者なら、もう察しがついていふことですが、この実験は「二種類のペンがあつたとき、欧米人と東アジア人では選び方が違はずだ」ということを検証するためのものなのです。

Ⅲ 「協調性を重んじる東アジア人は多数派のペンを好んで選ぶだろうし、また個性を重んじるアメリカ人は少数派のペンを好んで選ぶだろう」というわけなのですが、実験の結果はまさに、その予測どおりになったのでした。実験に参加したアメリカ人のうち、少数派のペンを選んだのが多数派を占めていたのに対して、東アジア人で少数派のペンを選んだのはわずかに二割くらいしかいませんでした。

この実験を行なった文化心理学者たちが「これによって東アジア人には『相互協調的自己観』が共有されているのが確認できた」と結論づけたのは言うまでもないことです。(中略)

そこで私はこの実験を追試することにしました。

実験に参加してもらつたのは合計六〇〇名ほど北海道大学とスタンフォード大学の学生たちです。この人たちは別の社会心理学実験のために集まつてもらつていたのですが、彼らに対して実験前に「参加のお礼として、ペンを差し上げます」と言つて、四本の同じペンと一本だけ違うペンの合計五本から選んでもらうことにしました。

ここまでは文化心理学者の行なった実験と同じなのですが、日本人を対象とする実験では二種類の状況を作りました。

最初の実験では、五本のペンを実験者が参加者に差しだして、その場で選んでもらつていたわけですが、私の実験では、それとは別のシチュエーションを追加しました。

それは五本のペンを直接差しだすのではなく、ペンを入れた缶を実験参加者の机の上に置いたままで実験者が立ち去つてしまうというものです。

「私(実験者)は出てしましますが、缶の中のペンをどうぞご自由に一本お取りください」というわけなのですが、さて、人が見ているか見ていないかで、実験に参加してくれた人たちの行動はどう変わったのでしょうか。

この実験の結果は、私の予想どおりでした。

ペンを**選ぶ際に実験者が立ち会っている場合**、空港で行なわれた**実験とほぼ同じ結果になりました。**

アメリカ人学生の場合、少数派のペンを選んだ人は四二%でしたが、日本人ではその半分近くの二三%程度しかいません。明らかにアメリカ人のほうが少数派ペンを選んでいきます。

ところが、目の前に他人、つまり実験者がいない状況になると日本人でも少数派のペンを選ぶ人がぐっと増えるのです。

先ほども書いたように目の前に他人がいる場合だと一本きりのペンを選んだ人は二三%しかいなかったのに対して、目の前に他人がいないと選ぶ率は三五%にはね上がります。

もし、文化心理学者が言うように、ペンを選ぶ理由が「少数派ペンと多数派ペンに対する好みの違い」にあるのならば、他者が見ていようと

国語

問題一 以下の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

【文章Ⅰ】

文化と心の性質との関係を研究テーマにする文化心理学で唱えられている仮説の一つに、次のようなものがあります。

それは「欧米社会には『相互独立的自己観』と呼ばれる信念群が共有され、東アジア社会には『相互協調的自己観』が共有されている」というものです。

分かりやすく言うならば、欧米の人たちは「自分は他人と違うユニークな存在である」と考え、「自己主張することが自分の望む結果を得る最良の方法だ」と信じているのに対して、日本人を含む東アジアの人々は「他人と違っているのは好ましくない」と考える傾向があつて、「他人と協調するのが自分の望む結果を得る最良の方法である」と信じている。分かりやすくいえば、東アジアの人たちは「みんなと一緒に」が一番いいと思つているというわけです。(中略)

さて、こうした仮説を検証するために、文化心理学者たちが次のような実験を行ないました。

それは、空港で飛行機を待つている旅行者たちに簡単なアンケート(専門用語では「質問紙調査」と言います)を行なうというものなのですが、その際、

「調査に協力してくれたお礼に、記入に使つてもらつてもらうペンを差し上げます」

と言つて、袋から五本のペンを取り出します。

Ⅰ このペンを選ぶことが実験の主眼で、質問紙調査のほうはそのためのフェイク、目くらましのようなものです。

Ⅱ ここで差しだされた五本のペンはどれも同じ形状をしているのですが、そのうち一本か二本、他のペンと違う色のものが混ざつています。

勘のいい読者なら、もう察しがついていふことですが、この実験は「二種類のペンがあつたとき、欧米人と東アジア人では選び方が違はずだ」ということを検証するためのものなのです。

Ⅲ 「協調性を重んじる東アジア人は多数派のペンを好んで選ぶだろうし、また個性を重んじるアメリカ人は少数派のペンを好んで選ぶだろう」というわけなのですが、実験の結果はまさに、その予測どおりになったのでした。実験に参加したアメリカ人のうち、少数派のペンを選んだのが多数派を占めていたのに対して、東アジア人で少数派のペンを選んだのはわずかに二割くらいしかいませんでした。

この実験を行なった文化心理学者たちが「これによって東アジア人には『相互協調的自己観』が共有されているのが確認できた」と結論づけたのは言うまでもないことです。(中略)

そこで私はこの実験を追試することにしました。

実験に参加してもらつたのは合計六〇〇名ほど北海道大学とスタンフォード大学の学生たちです。この人たちは別の社会心理学実験のために集まつてもらつていたのですが、彼らに対して実験前に「参加のお礼として、ペンを差し上げます」と言つて、四本の同じペンと一本だけ違うペンの合計五本から選んでもらうことにしました。

ここまでは文化心理学者の行なった実験と同じなのですが、日本人を対象とする実験では二種類の状況を作りました。

最初の実験では、五本のペンを実験者が参加者に差しだして、その場で選んでもらつていたわけですが、私の実験では、それとは別のシチュエーションを追加しました。

それは五本のペンを直接差しだすのではなく、ペンを入れた缶を実験参加者の机の上に置いたままで実験者が立ち去つてしまうというものです。

「私(実験者)は出てしましますが、缶の中のペンをどうぞご自由に一本お取りください」というわけなのですが、さて、人が見ているか見ていないかで、実験に参加してくれた人たちの行動はどう変わったのでしょうか。

この実験の結果は、私の予想どおりでした。

ペンを**選ぶ際に実験者が立ち会っている場合**、空港で行なわれた**実験とほぼ同じ結果になりました。**

アメリカ人学生の場合、少数派のペンを選んだ人は四二%でしたが、日本人ではその半分近くの二三%程度しかいません。明らかにアメリカ人のほうが少数派ペンを選んでいきます。

ところが、目の前に他人、つまり実験者がいない状況になると日本人でも少数派のペンを選ぶ人がぐっと増えるのです。

先ほども書いたように目の前に他人がいる場合だと一本きりのペンを選んだ人は二三%しかいなかったのに対して、目の前に他人がいないと選ぶ率は三五%にはね上がります。

もし、文化心理学者が言うように、ペンを選ぶ理由が「少数派ペンと多数派ペンに対する好みの違い」にあるのならば、他者が見ていようと

しまいと関係なく、日本人は多数派のペンを選ぶはずですが、
しかし、実際には他人の目があるかないかで結果が違ってくるのですから、それは日本人の「好み」や「価値観」と直接の関係はないということになります。

【文章Ⅱ】

日本とアメリカでそれぞれ五〇名程度の学生を集めて、次のようなシナリオに基づく質問紙調査をします。
「学生たち五人でアンケート調査に協力し、そのお礼として少し高級なボールペンをもらえることになりました。『お礼としてペンを一本差し上げますので、この箱の中からお好きなペンを選んでください』と言われたので、ペンを見てみると五本とも同じ形なのですが、外側の色が他のペンと違うものが一本だけありました」

この調査では「このような状況になったとき、あなたならどちらのペンを選びますか」と質問がなされるのですが、その答えの結果を見ると、やはり実際にペンを選んでもらった前回の実験と同じく、アメリカ人のほうが少数派ペンを選ぶ傾向にあります。

ここまでは前回と同じですが、質問はまだ続きます。

第二番目の質問では、先ほどのシナリオが繰り返されたあと、最後に次の一文が付け加えられます。

「一番端の席に座っているあなたが、五人の中で最初にペンを選ぶことになりました」

さあ、この状況ならば、あなたは何色のペンを選びますか、というわけです。

さらに第三番目の質問では、こうなります。

「五人が順番にペンを選ぶことになったのですが、座席の関係であなたは最後にペンを選ぶことになりました。順番がやってきて箱を見ると、五本のペンが残っています」

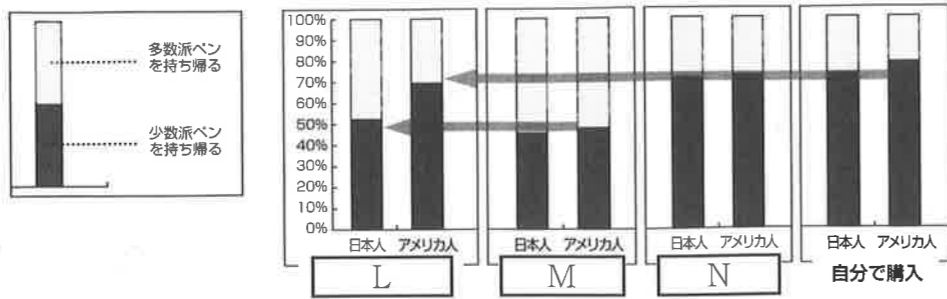
言うまでもないことですが、二番目の質問のシナリオでは、もし最初に少数派のペンを選んでしまえば、他の人たちは必然的に多数派のペンを選ぶしかありません。逆に、三番目のシナリオならば、あなたがどの色を選ぼうと、他の参加者に何の影響もありません。

さて、この追加の二つの質問の結果はどうなったと思いますか？

実は、このように状況を明確化していくと、アメリカ人も日本人も答えは変わらなくなってくるのです。

自分が最初にペンを選ぶという状況に置かれたとき、少数派ペンを選ぶだろうと答えた人たちは、アメリカ人も日本人でも日本人でも五〇%弱でした。これに対して、ペンを最後に選ぶシチュエーションに置かれたとき、少数派ペンを選ぶと答えた人たちは日米双方ともに七〇%近くになって、

図1 実はアメリカ人も日本人もペンの好みは変わらない



統計的に見て、ほぼ同じ水準であることが分かりました。

このことはいったい何を意味するのでしょうか。

それは要するに、自分が置かれている状況が明確であるときには、日本人もアメリカ人も同じような選択をするということに他なりません。

「五人の中で最初にペンを選ぶ」という状況（最初選択）においては、自分の選択が他の人たちに影響を与えることが明白です。そうしたときに、デフォルト状況では七割が少数派ペンを選んでいたアメリカ人も、日本人と同じ程度の「遠慮」をようになります。

一方、自分の選択が他の人に影響を与えないことが明確な「最後に選択する」（最後選択）というケースでは、日本人が少数派のペンを選ぶ率がアメリカ人とほぼ同じレベルの七〇%になりました。

ちなみに、この調査では「ボールペンのインクが切れたので、文房具店にペンを買に行きました」という設定で、売り場に一本だけが色違いのボールペン五本があったときに、どちらのペンを選ぶかという質問もしています。

自分のお金を出してペンを買うのですから、これこそ自分の好みを優先させて買う状況なのですが、この場合、少数派のペンを選ぶ比率はアメリカ人でも日本人でもやはり七〇%近くになって、先ほどの「最後選択」の回答とほぼ同じ結果になっています。他者の存在を気にすることなく自由に選択できる場合、日本でもアメリカでも七割くらいの人は少数派ペンを選ぶ傾向があるということが分かります。

(山岸俊男「日本の「安心」はなぜ、消えたのか」より)

注 デフォルト状況……

「デフォルト」とは初期設定、標準動作の意。「デフォルト状況」とは、その社会における通常の状態のこと。

また「デフォルト選択」とは、デフォルト状況下でとられる選択のこと。「デフォルト戦略」とは、「どうしていいかわからないとき」に「とりあえず」選択される「無難なやり方」のこと。

問一 空欄Ⅰ、Ⅲに当てはまる適語を、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ア 実は イ さて ウ どちらも エ つまり

問二 傍線部A「私はこの実験を追試することにしました」とあるが、筆者は「追試」の結果、どのように考え、行動したか。その説明として最も適当なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

ア 文化心理学で唱えられている「欧米社会では『相互独立的自己観』が共有され、東アジア社会には『相互協調的自己観』が共有されている」という仮説を堅固な論だと考え、さらに次の実験を行った。

イ 文化心理学で唱えられている「欧米社会では『相互独立的自己観』が共有され、東アジア社会には『相互協調的自己観』が共有されている」という仮説は信用できないと考え、否定するための実験を行った。

ウ 文化心理学で唱えられている「欧米社会では『相互独立的自己観』が共有され、東アジア社会には『相互協調的自己観』が共有されている」という仮説に疑問を持ち、新しい仮説を発見するために実験を行った。

エ 文化心理学で唱えられている「欧米社会では『相互独立的自己観』が共有され、東アジア社会には『相互協調的自己観』が共有されている」という仮説が多くの人々の理解を得られたと考え、その紹介の本を書いた。

問三 傍線部B「日本人を対象とする実験では二種類の状況を作ることになりました」とあるが、「二種類の状況」にはどのような違いが設定しているのか。本文から十五字以内で抜き出しなさい。

問四 【文章Ⅰ】の波線部Ⅰ「ペンを選ぶ際に実験者が立ち会っている場合、空港で行なわれた実験とはほぼ同じ結果になりました」と【文章Ⅱ】の波線部Ⅱ「前回の実験と同じく、アメリカ人のほうが少数派ペンを選ぶ傾向にあります」では、どちらも【文章Ⅰ】の冒頭の実験と同じような結果が出ているが、どうして同じ結果が出る実験を行っていると考えられるか。その説明として適当ではないものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

ア 冒頭の実験と同じような結果が出ることで、被験者グループが特別な集団ではなく、冒頭の実験と同じような集団であることがわかるから。

イ 冒頭の実験では「欧米の人たち」と「東アジアの人たち」が対象だが、それが「アメリカ人」と「日本人」に当てはまるかを確認するため。

ウ 実験によって参加者の人数が違ったり実験の方法が変わっていたりするので、それぞれの集合に特殊な偏りがないかどうかを確認するため。

エ 波線部Ⅰも波線部Ⅱも冒頭の実験の「追試」であり、「追試」は、同じ実験で同じ結果が出ることが必須の条件として課せられているから。

問五 傍線部C「このように状況を明確化していくと、アメリカ人も日本人も答えは変わらなくなってくる」とあるが、「状況を明確化」、「答えは変わらなくなる」とはどのようなことに注意して、傍線部全体をわかりやすく言い換えなさい。ただし、「最初選択」「最後選択」「日本人」「アメリカ人」の語を使って、八〇字以内で具体的に説明しなさい。

問六 以下の問に答えなさい。

- (i) 図1の **L** **N** に適当な語の組み合わせを、それぞれア～エから選り記号で答えなさい。
- | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------|---|-------|---|-------|---|-----------|---|-------|---|-------|
| ア | L・デフォルト戦略 | M | ・最初選択 | N | ・最後選択 | イ | L・デフォルト戦略 | M | ・最後選択 | N | ・最初選択 |
| ウ | L・デフォルト選択 | M | ・最初選択 | N | ・最後選択 | エ | L・デフォルト選択 | M | ・最後選択 | N | ・最初選択 |

(ii) 以下は、授業で【文章I】と【文章II】を読んだ生徒と教師が図1について話し合っている場面です。**X** **Z** に適当な語を入れて会話を完成させなさい。ただしXには以下の会話文中から四文字で、YとZには【文章I】から一〇字以内で抜き出しなさい。

教師 ここで「デフォルト選択」について考えてみよう。「デフォルト」とは初期設定とか、標準動作という意味だね。では、筆者はどうして最初の質問の結果を「デフォルト選択」と名づけたのだろうか。

生徒A それは最初の質問だし、以前の実験もそうだから、これが基本の質問ということじゃないのかな。

生徒B それだと「最初選択」や「最後選択」「自分で購入」から「デフォルト選択」に引いてある矢印の意味がよく分からないわ。

生徒C 日本人の「デフォルト選択」は「最初選択」と同じでしょ。アメリカ人の「デフォルト選択」は「最後選択」と同じだということを示しているんだから……。

生徒D 逆に考えてみたらどうだろう。日本人は「デフォルト選択」つまり日常の **X** を「最初選択」に置いている。あとから選ぶ人に遠慮する行動を社会で行動する基準にしている。つまり「デフォルト選択」とは、「その社会で生きる自分の行動基準にしている選択の仕方」ということじゃないかな。

教師 そうですね。このグラフには以下のような説明が書かれています。

デフォルト条件での選択では、ペン選択に関して日米差があるように見えるが、状況を初期化してみると、日米間での差はほとんどなくなってしまう。日本人とアメリカ人の違いは、心の違いというよりは「デフォルト戦略」の違いであることが、これからも分かる。

つまり筆者は、文化心理学で通説になっている「欧米社会 **Y**」、「東アジア社会 **Z**」が、「心の違い」ではなく「社会に対する対応の仕方の違い」だといっているのですね。

問題二 次の【文章】は夏目漱石が大正二年（1913）二月に母校の第一高等学校で講演した内容を採録した『模倣と独立』の一部です。

【資料I】『ものがわかるということ』（養老孟司）、【資料II】『精読学問のすゝめ』（橋本治）はそれに関連するものです。これらを読んで、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

【文章】

私は人間を代表すると同時に私自身をも代表している。その私自身を代表しているという所から出立して考えて見ると、イミテーションという代りにインデペンデントという事が重きをなさなければならぬ。人がするから自分もするのではない。人がそうすれば——他人は朝飯に粥を食う俺はパンを食う。他人は蕎麦を食う俺は雑煮を食う、われわれは自分勝手にやろうおまえは三杯食う俺は五杯食う、というような事はいミテーションではない。他人が四杯食えば俺は六杯食う。それはイミテーションでないか知らぬが、事によると故意に反対することもあ

る。これはいけない。世の中には奇人というものがあって、どうも人並の事をしっちゃ面白くないから、何でも人とは反対をしなければ気が済まない。中には広告するためにやる奴もある。普通のことでは面白くないから、何か特別な事をして見たいというので、髪の毛を伸ばして見たり、冬、夏帽を被って見たり——それは此処の生徒などにもよくある。が、あれは無頓着から来るのでしよう。人が冬帽を被っているという事に気が付けば自分も被りたくなるでしょう。故意に俺は夏帽を被るといった日にはよほど奇人となる。私のここにインデペンデントというのは、この故意を取り除ける。次には奇人を取り除ける。気が付かないのも勘定の中に入らない。それじゃあどういのがインデペンデントであるか。人間は自然天然に独立の傾向をもっている。人間は一方でイミテーション、一方で独立自尊、というような傾向をもっている。その内

で区別して見れば、横着な奴と、横着でない奴と、横着でないけれども分らないから横着をやって、まあ朝八時に起きる所を自然天然の傾向で十時頃まで寝ている。それはインデペンデントには違いないが、甚だどうも結構でない事かも知れません。それは我儘、横着であるが自然でもある、インデペンデントともなるけれども、これも取り除けということになる。最後に残るのは——貴方がたの中でよく誘惑ということを言ひましょう。人と歩調を合わして行きたいという誘惑を感じても、如何せんどうも私にはその誘惑に従う訳に行かぬ。（中略）古臭い例を引くよ

うであります、坊さんというものは肉食妻帯をしない主義であります。それを真宗の方では、ずっと昔から肉を食った、女房を持っている。これはまあ思想上の大革命でしょう。親鸞上人に初めから非常な思想があり、非常な力があり、非常な強い根底のある思想を持たなければ、あ

れほどの大改革は出来ない。言葉を換えて言えば親鸞は非常なインデペンデントの人といわなければならぬ。あれだけのことをするには初めからチャンとした、シツカリした根底がある。そうして自分の執るべき道はそうでなければならぬ、ほかの坊主と歩調を共にしたいけれども、如何せん独り身の僕は唯女房を持ちたい肉食をしたいという、そんな意味ではない。その時分に、今でもそうだけれども、思い切って妻帯し肉食

をするということを公言するのみならず、断行して御覽なさい。どの位迫害を受けるか分らない。もつとも迫害などを恐れるようではそんな事は出来ないでしょう。そんな小さい事を心配するようでは、こんな事は仕切れないでしょう。其所そこにその人の自信なり、確固たる精神なりがある。その人を支配する権威があつて初めてああいうことが出来るのである。だから親鸞上人は、一方じゃ人間全体の代表者かも知らんが、一方では著しき自己の代表者である。

(中略)

それで、人間にはこの二通りの人がある。というと、片方と片方は紅白Aみたように別れているように見えますが、一人の人がこの両面をもっているということが一番適切である。人間には二種の何とかがあるということをよくいうものですが、それは大変間違いだ。I 片方は片方だけの性格しか具えていないようになる。議論する人はそういう風になるから、あとがどうも事実から出発していない議論に陥つてしまう。とにかく二通りの人間があるということを言うが、これはこの両面をもっているというのが、これがほんとうの事でしょう。いくらオリヂナルの人でもイミテーションの分子を何処かにもっている。イミテーションの側に立つて考えると、これはどういう人がイミテーターかということ、要するにイミテーターというものは人の真似をする。それだから自分に標準はない。あるいはあつても標準を立て通すだけの強い猛烈な勇気を欠いているか、どっちかなのである。しかしながらインデペンデントの側の方は、自分に一種の目安がある。アイデアル・センセーション注2、それが個人的になっておつて、とにかくそれを言い現わし、それを実行しなければいっても立ってもどうしてもいられない。風変わりではあるが、人からいくら非難されても、おまえは風変わりだと言われても、どうしてもこうしなければいられない。

(夏目漱石『模倣と独立』より)

注1 真宗……ここでは浄土真宗を示す。親鸞上人が開祖。他の仏教宗派との最大の違いは、僧侶に肉食妻帯が許される点である。

注2 アイデアル・センセーション……ここでは、考え行動する際の標準の意。

【資料Ⅰ】

日本と西洋を比較して、「日本人には自我がない」「個の確立が重要だ」「自分の意見をはっきり言えるように」「個性を伸ばせ」といった主張を聞いたことがあるでしょう。その発端は、明治に近代的な自我が侵入してきたことにあるのです。

日本独特と言われる「私小説」も、近代的自我の侵入によって生じたものに違いありません。「独立した自我」なんて言われても、普通の人にはよくわからない。わからないから、自分が毎日することを懇切丁寧に記録し、それが私小説になりました。だってそれ以外に、自分を吟味する仕方なんてわかりませんから。

当初、近代的自我なんて日本の世間には必要ありませんから、それを問題にするのは、インテリに限られていました。たとえばイギリスに留学した夏目漱石は、近代的自我をよく知っていました。だから「私の個人主義」なんて講演をしているんです。

II 漱石は個人主義を推奨し、近代的自我を導入せよと主張したではありません。彼は同時に明治人として、世間というものを大変よく知っていました。だから西洋風の個人と、世間との対立を身をもって感じ、どうすればいいか、どう考えればいいのか、大いに悩みます。胃潰瘍になったのも、それが原因の一つでしょう。

(養老孟司『ものがわかるということ』より)

【資料Ⅱ】

農工商には當める《家業》がありますが、未来がなく実質を失った武士にはそんなものはありません。だったらどうするのかと言えば、福沢諭吉の答は「独立しろ」です。この「独立」はもちろん、「未来のない家なんか独立しろ」ではありません。「埋没した存在から立ち上がれ」です。そう考えなければ、《身も独立し家も独立し天下国家も独立すべきなり》の部分の意味が通りません。(中略)

武田信玄は「X」と言いました。「国の構成要素となる人間がしっかりしていることこそが、国の最大の力だ」です。だから《身も独立し家も独立し天下国家も独立すべきなり》です。

江戸時代に一番重要で絶対だったのは「主君のため」です。「主君のためが第一」で、自分のことを考えるのはあまりいいことではありません。III、明治五年段階の読者にとって一番分りにくいのは、《身》——すなわち「自分自身」の独立でしょう。

江戸時代の人間にとって、最大の出世あるいは最大の榮譽は、「主君」である殿様や幕府によって認められ、そのお誉めに与ることです。それは武士だけではなく、農民にとっても職人にとっても商人にとっても同じです。評価の基準は自分にはなくて、自分が従うべき「主君」や「主人」が握っています。《独立》とは、その従属関係から抜け出すことです。ただ、それを言っただけで明治五年の人達の理解をどれほど得られる

かは分かりません。そこで登場するのが『家も独立し』です。

「自分がなにかの従属状態から離れて立ち上がる」というのは、明治五年の人にとっては「分かるような気がするけどよく分からない」ようなことです。それは簡単に言えば「^E旗揚げる」ということで、やがては大勢の人間がやりたがるようにはなりますが、明治五年ではまだ具体例が少なすぎます。「剥き出しに自分である」ということは、近代が始まったばかりのこの段階では心細いことでもあります。「家を独立させる」ということになると思います。俄然^{がぜん}分かりやすくなります。

(橋本治『精読学問のすゝめ』より)

問一 空欄Ⅰ、Ⅲに当てはまる接続語を、それぞれア～エから選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ア だから
- イ しかし
- ウ たとえば
- エ そうすると

問二 【文章】の二重傍線部「インデペンデント」とはどのような存在か。五〇字以内で説明しなさい。なお、文末を「く存在。」とすること。

問三 傍線部A「紅白みたように」の意味として最も適当なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 好対照の組み合わせのように
- イ 敵対する関係が明確なように
- ウ よくある例で誰もが理解できるように
- エ 見た目でもはっきりとわかるように

問四 傍線部B「この両面をもっている」とあるが、同義の表現として最も適当な一文を抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問五 傍線部C「イミテーション」の例として最も適当なものを、ア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 事業を始めるにあたって同業店へ修行に出る。
- イ レストランでみんなと同じものを注文する。
- ウ 選挙で友人に頼まれた政党に投票する。
- エ 人と違うファッションを好んで選ぶ。

問六 傍線部D「西洋風の個人と、世間との対立」とあるが、この場合の「世間」とは【資料Ⅱ】においてどのような意味を持つか。その説明として最も適当なものを、ア～エから選り記号で答えなさい。

- ア 当時の大衆を構成する大部分となる商工人を想定し、商売以外での生計を立てる手段を思いつかないという意味。
- イ 主君のために生きることを第一と考える武士を想定し、従属する家から独立した個人を理解できないという意味。
- ウ 農作物を育て年貢を納めることを第一と考える農民を想定し、農作を離れた生活を理解できないという意味。
- エ 士農工商という身分制度に慣れ親しんでしまった大衆全般を想定し、新たな価値観を理解できないという意味。

問七 空欄 X に当てはまる表現を、ア～エから選り記号で答えなさい。

- ア 虎穴に入らずんば虎兇を得ず
- イ 人事を尽くして天命を待つ
- ウ 人は石垣、人は城
- エ 万事塞翁が馬

問八 傍線部E「一旗揚げる」の本文中の意味として最も適当なものを、ア～エから選り記号で答えなさい。

- ア 自分のための新たな家を興す
- イ 新しく事業を主人と始める
- ウ 家のために功績を挙げる
- エ 国家のために尽力する

問題三 次の間にそれぞれ答えなさい。

問一 次のI～IVの傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれア～エから選り記号で答えなさい。

- I 健康をカ|ンリする
 - ア ミカ|ンの大器と呼ばれた選手
 - イ 優れたカ|ンセイの持ち主
 - ウ 金庫に大金をホカ|ンする
 - エ アツカ|ンの演奏で魅了する
- II 想像力をクシ|して作品を仕上げる
 - ア 選手生命をカ|けて試合に出場する
 - イ 洋服をカ|けるところがない
 - ウ 住民のために新しい橋をカ|ける
 - エ 幼い頃はいつも野山をカ|け回った
- III 人には生まれつきソナ|わっている免疫機能がある
 - ア ケイビ|員を雇わなくてはならない
 - イ 先生がビ|ショウを浮かべていた
 - ウ ゴビ|を大きな声ではっきりと話す
 - エ 芸術を通して学生のシンビ|眼を養う

- IV 千載一グウのチャンスを生かす
ア 親友とのグウゼンの出会いに感謝する
イ 彼は恵まれたキヨウグウに育っていた
ウ 近くの神社のグウジさんはとても若い
エ グウワから学ぶことは数多くある

問二 次のI～IIIの傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- I 先方に丁重にお断りをする
II 彼女に幼いころの面影は残っていない
III 子どもたちの健やかな成長を願う

問三 次のI～IIIの傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- I 春であるかのようなサツカクに陥った
II ドウヨウしたものの落ち着いて対処できた
III 台風に備えてボートを縄でシバった

